

# 「肥料科学」執筆要領

(2021年10月14日制定)

財団法人肥料科学研究所, 肥料科学編集部会

## 1. 対象読者

本誌の読者は、土壌肥料に関係した大学、企業、団体、試験研究機関、行政機関など研究や生産現場の普及・指導等に携わる方々と多岐にわたります。専門家以外の方でも興味をもって読んでいただけるよう、わかりやすく執筆して下さい。

## 2. 原稿の作成と送付

- ・原稿は、論説、研究報告、資料、追悼に区分します。
- ・原稿は、パソコンソフト (Word) で作成し、電子ファイルを肥料科学研究所にお送り下さい。レイアウトは不要です。ただし、本文中に、図表の入る場所を指定してください。
- ・図表・写真は、文と別ファイルとし、電子ファイルとして送ってください。容量が大きくてE-mail転送が困難なときは、CD等の電子媒体などでお送り下さい。

## 3. 構成と文体

- ・原稿の分量は定めませんが、概ね刷り上がり 30 ページ (図表を含み 28,000 字) 程度としてください (肥料科学研究所 HP (<https://www.hiryokagaku.or.jp>) 最新号参照)。
- ・原稿は、表題、著者名、所属、本文、参考文献の順として下さい。  
本文の記述はわかりやすい総説風とし、原著論文形式 (目的、方法、結果) の記述は避けて下さい。
- ・文章は「・・・である」調を原則とし、常用漢字 (学術用語を除く) を使ってください。
- ・本文中には読みやすいように大、中、小の見出しを付け、大見出しは 1. 2. 3. ...、中見出しは 1) 2) 3) ...、小見出しは (1) (2) (3) ...として下さい。
- ・1 ページ目の下に、英文著者氏名、英文タイトルを記入してください。

## 4. 表記法

- ・年号は原則として西暦とし、論文の性格によって必要があれば元号を併記して下さい。
- ・生物名 (種を表す和名) は原則としてカタカナとしますが、総称名などは漢字、平仮名等、その分野の慣用に準じて下さい。学名を表記する場合には、通常用いられている学名 (イタリック) で表記してください。
- ・本文、図、表中の単位は SI 単位を基本としますが、慣用的に用いられている単位がわかりやすいときは、その限りではありません。

(例) 10a、%、ppm など

- ・元素表記を基本としますが、肥料成分含有率や土壌分析値など慣用的に酸化物表記が用いられている数値は、その限りではありません。ただし、酸化物表記であることがわかるように工夫してください。

(例) 水溶性リン酸(P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>)17%、化成肥料 (N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O:14%-8%-16%)

交換性カリウム (K<sub>2</sub>O) 25mg/100g など

- ・一般的でない略号を使うときは最初に用いるときに ( ) で注釈を入れてください。

(例) FTA (自由貿易協定)

## 5. 図表の作成

- ・図、表、写真は、本文とは別に作成し、電子ファイル (jpg, pdf, ppt, excel など、できるだけ解像度が高いファイル) で送ってください。図と写真では下に、表では上にタイトルと必要な関連説明を付けて下さい。
- ・図、表中の用語は可能な限り和文にして下さい。
- ・図、表、写真には、図 1、表 1、写真 1 のように番号を付け、引用箇所を ( ) 書きで本文中に示して下さい。
- ・図と写真は、カラー印刷も可能です。

## 6. 参考文献

- ・本文中で他の文献を引用する場合には、引用個所に (阿部, 2000) のように記入します。著者が複数の時は (阿部ら, 2000) のようにして下さい。同じ個所に複数の文献を掲載する場合には、各文献の間にセミコロンを入れて下さい (阿部, 2000 ; 菅, 2001) 。
- ・参考文献は、本文の末尾に筆頭著者名 (姓) の頭文字の A、B、C 順に記述して下さい。
- ・参考文献の記載は、所属学会や研究会の記述方法に準じてください。場合によっては編集段階で変更することもあります。
- ・参考文献で HP を引用するときは URL のみの記述は避け、次のようにして下さい。

(例) 農林水産省 (2020) : [https://www.maff.go.jp/j/tokei/kekka\\_gaiyou/sakumo...](https://www.maff.go.jp/j/tokei/kekka_gaiyou/sakumo...)

## 7. 公表の方法及び著作権

執筆いただいた論説等は、書籍で出版するとともに、肥料科学研究所のホームページ等に PDF で公開します。なお、論説の著作権は著者にあり、肥料科学への著作権の委譲等の手続きは行いません。外部からの問い合わせは、著者に対応をお任せします。